

令和4年度

大阪市二次医療圏  
「地域医療構想」の進捗状況

# Contents

## ① 大阪市二次医療圏の概要

- (1) 医療体制の概要
- (2) 令和3年度病床機能報告結果等
- (3) 令和4年度病院プラン結果

## ② 患者受療状況

- (1) MDC別診療実績の推移 (DPC)

## ③ 主に高度急性期から急性期となる入院料の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 医療提供状況 (SCR)

## ④ 主に急性期から回復期となる入院料の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 医療提供状況 (SCR)

## ⑤ 慢性期となる入院料の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 医療提供状況 (SCR)

## ⑥ 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している  
医療機能・病床機能等
- (2) まとめ

# ① 大阪市二次医療圏の概要

(1) 医療体制の概要

(2) 令和3年度病床機能報告結果等

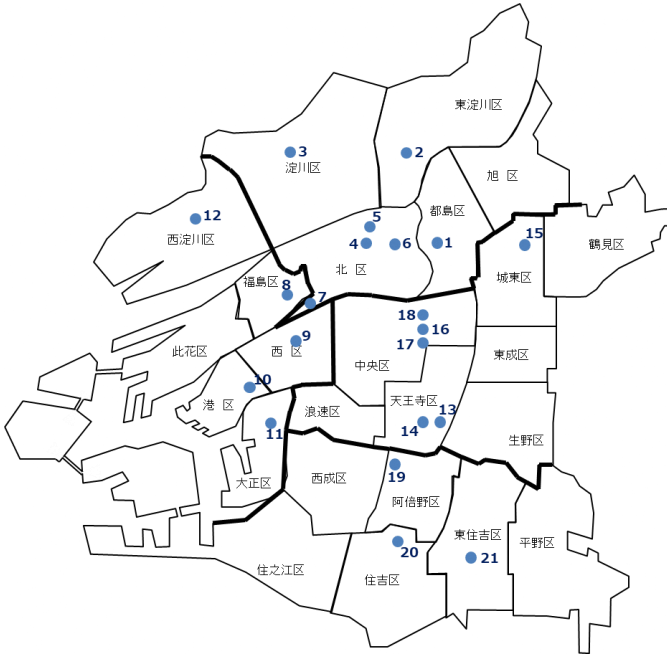
(3) 令和4年度病院プラン結果

# ① (1) 医療体制の概要(主な医療施設の状況)

大阪市二次医療圏では、公立病院経営強化プラン対象病院が4病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が17病院である

## ● 主な医療施設の状況

No.	保健医療圏	所在地	病院名	病院機能分類	公立病院経営強化	公立病院経営強化	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院	新型コロナウイルス	受入医療機関		
					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	北部基本	都島区	大阪市立総合医療センター	②急性期病院	○				○				□	○								◎		
2		東淀川区	宗教法人在日本南ブレスピテリアンミッション淀川キリスト教病院	②急性期病院		○								○									◎	
3		淀川区	大阪市立十三市民病院	②急性期病院	○																		◎	
4		北区		社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院	③急性期ケアミックス型病院		○			○													◎	
5				大阪整肢学院	⑦慢性期病院		○				○													◎
6				公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	②急性期病院		○						○											◎
7				一般財団法人住友病院	②急性期病院		○						○											◎
8	西部基本	福島区	独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院	②急性期病院		○																◎		
9		西区	公益財団法人日本生命済生会日本生命病院	②急性期病院		○						○											◎	
10		港区	独立行政法人地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院	③急性期ケアミックス型病院		○																	◎	
11	西部基本	大正区	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会泉尾病院	③急性期ケアミックス型病院		○																◎		
12		西淀川区	社会医療法人愛仁会千船病院	②急性期病院		○																	◎	
13	東部基本	天王寺区	社会医療法人警和会大阪警察病院	②急性期病院		○																◎		
14			大阪赤十字病院	②急性期病院		○																	◎	
15		城東区	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院	②急性期病院		○																	◎	
16			地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター	①特定機能病院	○		○				○		◇				○						□	
17	東部基本	中央区	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター	②急性期病院		○								□	○						○	◎		
18			国家公務員共済組合連合会大手前病院	②急性期病院		○																	◎	
19	南部基本	阿倍野区	大阪公立大学医学部附属病院	①特定機能病院		○								□	○						○	□		
20		住吉区	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター	③急性期ケアミックス型病院	○									□	○								□	
21		東住吉区	医療法人橋会東住吉森本病院	③急性期ケアミックス型病院		○																	◎	
合計					4	17	2	16	2	14	2	5	19	6	6	1	7	1	1	4		20		

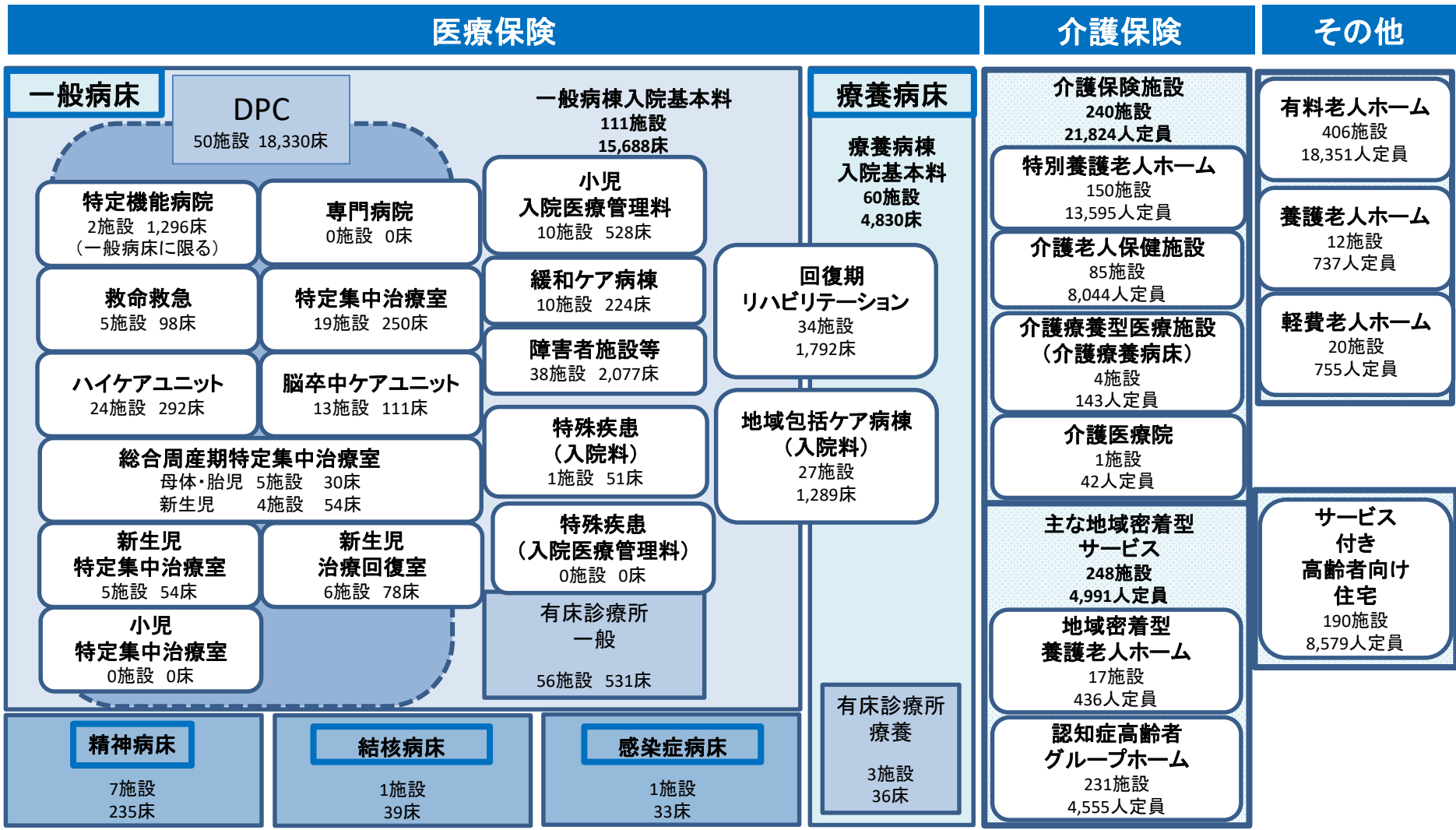


2022年11月時点  
【対象病院数173の内訳】  
公立病院：4  
公的病院：17  
民間等病院：152

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院（国指定）」、○印は「大阪府がん診療拠点病院（府指定）」を示す。  
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。  
※ 「新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関」の□印は「重症拠点病院」、◎印は「中等症・重症病院」、○印は「軽症中等症病院」を示す。

# ①(2) 病床機能報告結果等①(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能を有する施設から構成されている

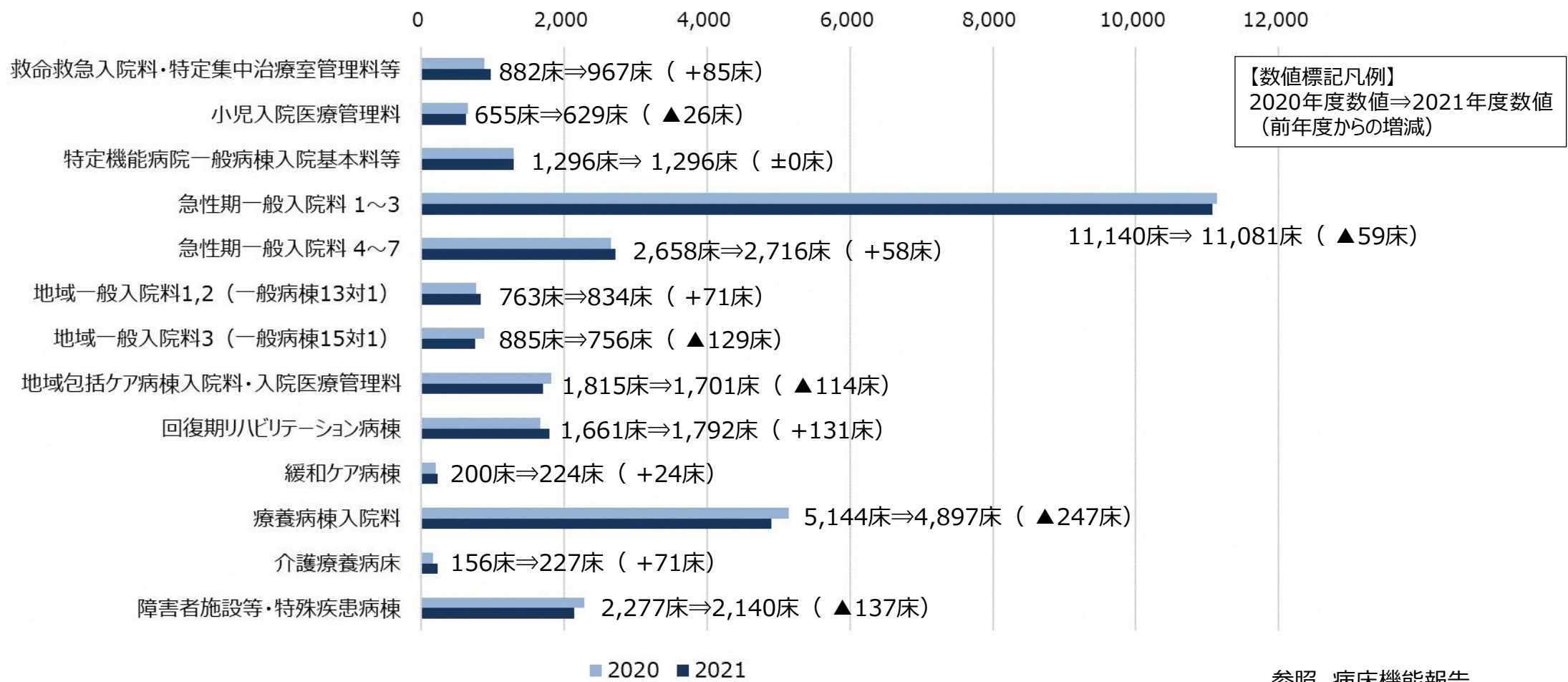


参照：「医療保険」病床機能報告（2021年7月1日時点）ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床（大阪府調べ（2021年10月31日時点））  
 「介護保険・その他」大阪府福祉部資料（認知症高齢者グループホームの施設数は2022年4月1日時点、定員数は2021年3月31日時点、  
 有料老人ホームは2022年10月1日時点、サービス付き高齢者向け住宅は2022年4月30日時点、その他施設は2022年4月1日時点）

# ① (2) 病床機能報告結果等②(入院料別の経年変化)

回復期リハビリテーション病棟は増加し、療養病棟入院料、障害者施設等・特殊疾患病棟は減少している

## ●入院料別報告病床数の推移



# ① (2) 病床機能報告結果等③(病床機能分化の状況)

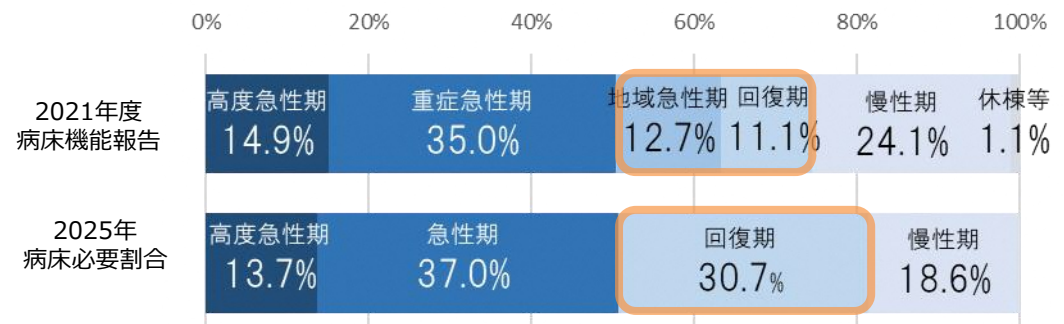
## 病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、約7%程度同機能への転換が必要と推計される

### ● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

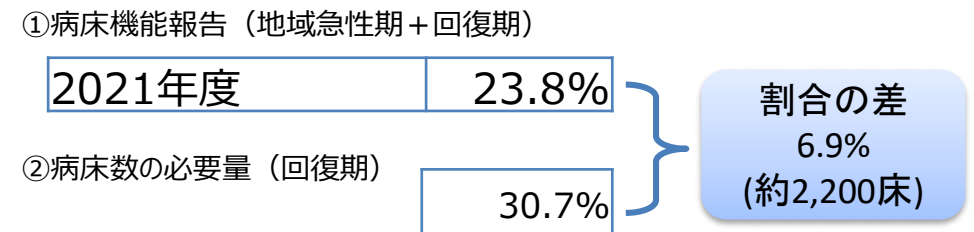
区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	4,335	10,624				8,525	7,003			30,487
病床機能報告	2014	5,304	16,594				2,162	6,505	160	2,545	33,270
病床機能報告	2015	4,561	16,101				2,446	7,276	400	2,222	33,006
病床機能報告	2016	5,326	15,804				2,515	7,336	296	1,522	32,799
病床機能報告	2017	5,828	15,279	10,752	781	3,746	2,809	8,013	193	76	32,198
病床機能報告	2018	5,566	14,826	10,845	0	3,981	3,275	8,094	439	0	32,200
病床機能報告	2019	4,900	15,357	12,858	128	2,371	3,450	7,824	297	252	32,080
病床機能報告	2020	4,897	14,753	12,352	123	2,278	3,585	7,716	166	914	32,031
病床機能報告	2021	4,794	15,653	11,230	335	4,088	3,563	7,755	356	57	32,178
病床数の必要量【既存病床数内※】	2025	4,400	11,904				9,886	5,988			32,178
病床数の必要量【オリジナル】	2025	4,745	12,838				10,662	6,458			34,703

※需要推計で算出した2025年の病床数の必要量における各病床機能区分の割合を、既存病床数に乘じ、算出した値。

### ● 病床機能報告（2021年度）と病床数の必要量（2025年）の割合の比較



### サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能 現状と将来必要となる病床機能の割合の比較



参照：病床機能報告

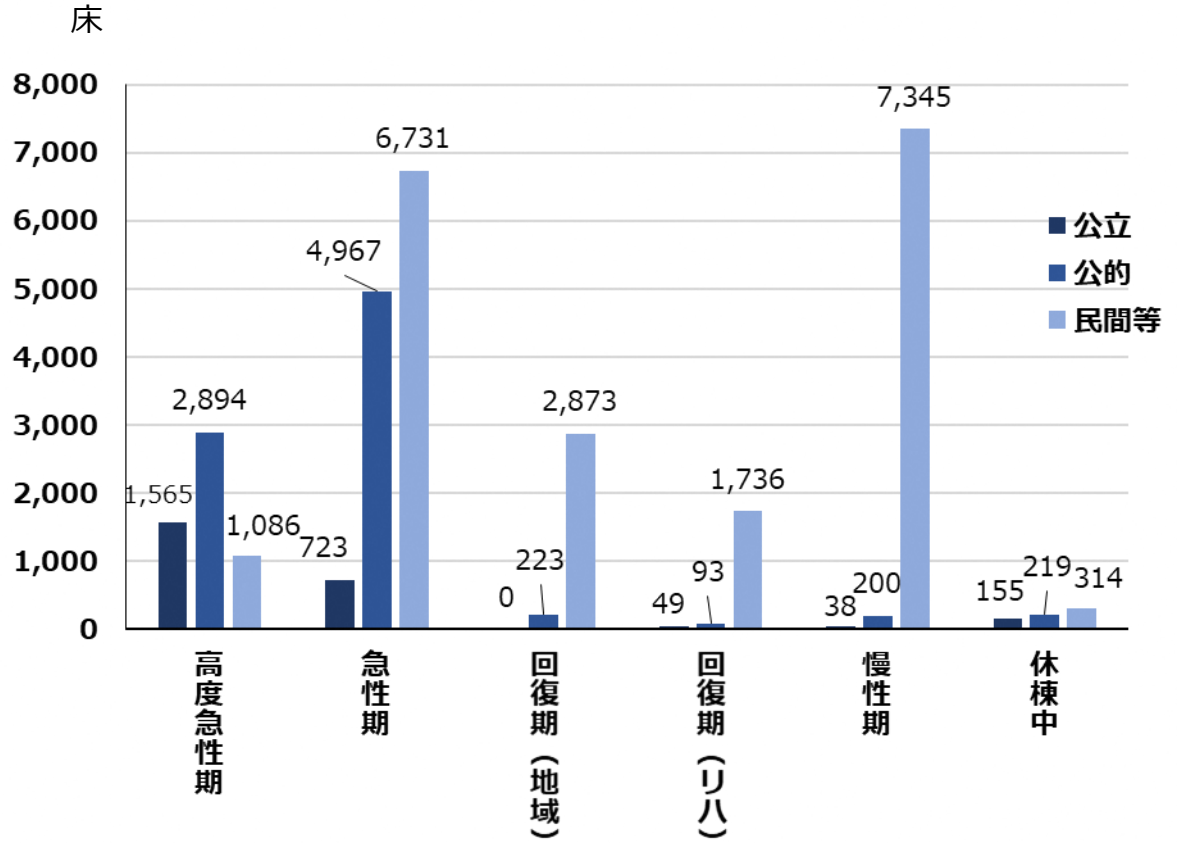
# ① (3) 令和4年度病院プラン結果①(公民別の病床機能別病床数)

**病床機能別病床数は、高度急性期では公立・公的病院が、回復期・慢性期では民間等病院が有する病床数が多い**

## ●病院プラン提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	4	4	100%
公的	17	17	100%
民間等	152	152	100%
合計	173	173	100%

## ●病床機能別病床数



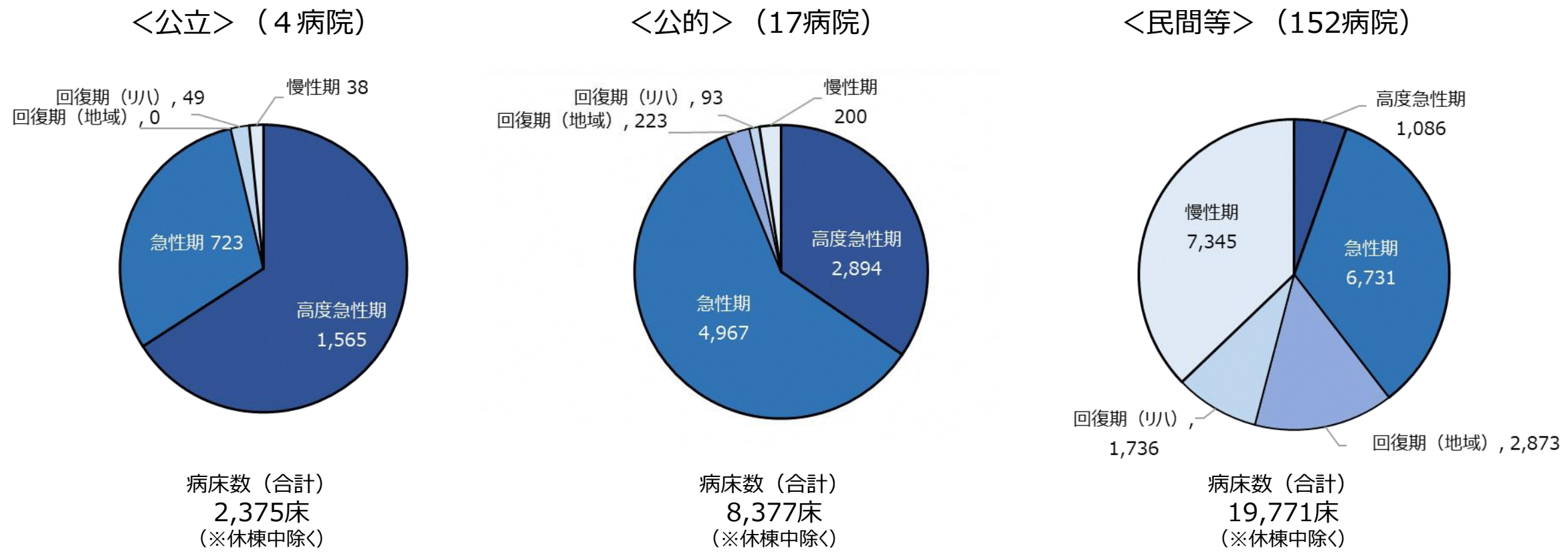
参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）



# ① (3) 令和4年度病院プラン結果②(公民別病床機能の割合)

病床機能は、公立・公的病院では高度急性期及び急性期が大半を占め、民間等病院では回復期及び慢性期の割合が高い

● 公民別病床数の病床機能別割合 (病院プラン等提出 173病院)



参照：令和4年度病院プラン (速報値：1月19日現在)

# ① (3) 令和4年度病院プラン結果③(病床機能別病床数)

病院からの報告による病床数は、報告基準に基づく病床機能別病床数と比して、急性期は多く、高度急性期・回復期(地域)は少なく、回復期(リハ)・慢性期ではほぼ一致している

## ● 病床機能別病床数

(「病院からの報告による病床数の合計」と「府の報告基準に基づく病床機能別病床数の合計」)

	病院からの報告による 病床数の合計 (A)	府の報告基準に基づく 病床機能別病床数の合計 (B)	差 (A)-(B)
高度急性期	5,545 床	5,770 床	▲ 225 床
急性期	12,421 床	11,473 床	948 床
回復期	4,974 床	5,660 床	▲ 686 床
地域	3,096 床	3,782 床	▲ 686 床
リハ	1,878 床	1,878 床	0 床
慢性期	7,583 床	7,567 床	16 床
休棟中	688 床	688 床	0 床
分類不能	0 床	53 床	▲ 53 床
合計	31,211 床	31,211 床	0 床

※：入院料を選択している場合でも、病床機能を「休棟中」と選択している場合は、府の報告基準に基づく病床機能においても「休棟中」で計上

# ① (3) 令和4年度病院プラン結果④(病院機能分類結果概要)

地域急性期11病院・回復期リハビリ6病院、他、急性期ケアミックス52病院・後方支援ケアミックス22病院が回復期機能を多く担っている

## ●病院機能分類の結果

	医療 機関数	許可 病床数	高度 急性期	急性期	回復期 (地域)	回復期 (リハ)	慢性期	休棟中	分類不能
特定機能病院	2	1,427 床	724 床	607 床	0 床	0 床	0 床	96 床	0 床
急性期病院	37	10,532 床	3,542 床	6,479 床	137 床	33 床	60 床	281 床	0 床
急性期ケア ミックス型病院	52	11,450 床	1,279 床	5,335 床	1,463 床	1,278 床	1,784 床	311 床	0 床
地域急性期病院	11	573 床	0 床	0 床	573 床	0 床	0 床	0 床	0 床
後方支援ケア ミックス型病院	22	2,675 床	0 床	0 床	913 床	139 床	1,623 床	0 床	0 床
回復期リハビリ 病院	6	428 床	0 床	0 床	0 床	428 床	0 床	0 床	0 床
慢性期病院	43	4,126 床	0 床	0 床	10 床	0 床	4,116 床	0 床	0 床
分類不能 (全床休棟中)	0	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床
<b>合計</b>	<b>173</b>	<b>31,211 床</b>	<b>5,545 床</b>	<b>12,421 床</b>	<b>3,096 床</b>	<b>1,878 床</b>	<b>7,583 床</b>	<b>688 床</b>	<b>0 床</b>

# ① (3) 令和4年度病院プラン結果⑤(新型コロナウイルス感染症受入病床の状況)

**急性期病院及び急性期ケアミックス型病院が、新型コロナの受入病床を確保する医療機関数の約85%を、確保病床数の約88%を占める**

●新型コロナ受入病床の状況（12月23日現在）

	医療機関数				確保病床数		
	医療機関数	重症拠点病院	中等症・重症病院	軽症中等症病院	重症	軽症中等症	
特定機能病院	2	1	0	1	28床	24床	4床
急性期病院	27	0	13	14	789床	96床	693床
急性期ケアミックス型病院	42	1	7	34	866床	62床	804床
地域急性期病院	1	0	0	1	21床	0床	21床
後方支援ケアミックス型病院	4	0	0	4	28床	0床	28床
回復期リハビリ病院	0	0	0	0	0床	0床	0床
慢性期病院	5	0	1	4	141床	5床	136床
<b>合計</b>	<b>81</b>	<b>2</b>	<b>21</b>	<b>58</b>	<b>1,873床</b>	<b>187床</b>	<b>1,686床</b>

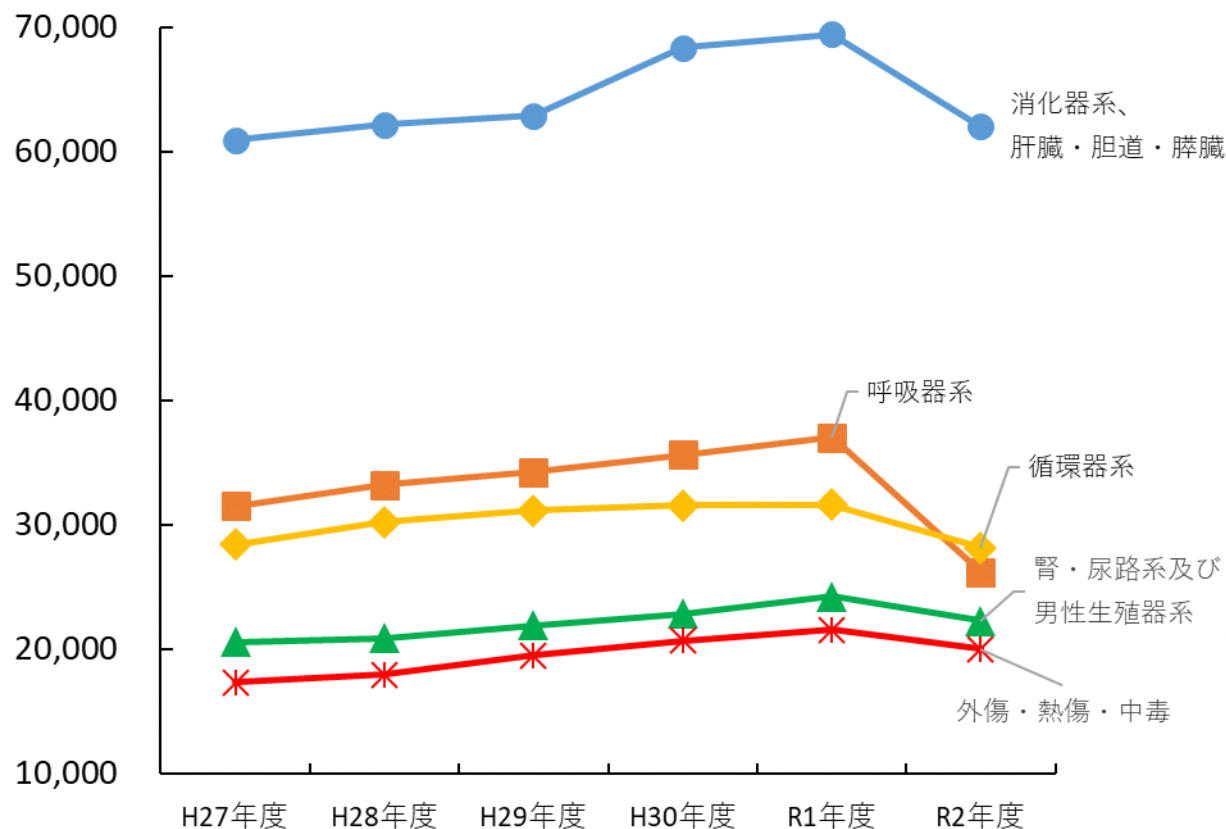
## **② 患者受療状況**

### **(1) MDC別診療実績の推移(DPC)**

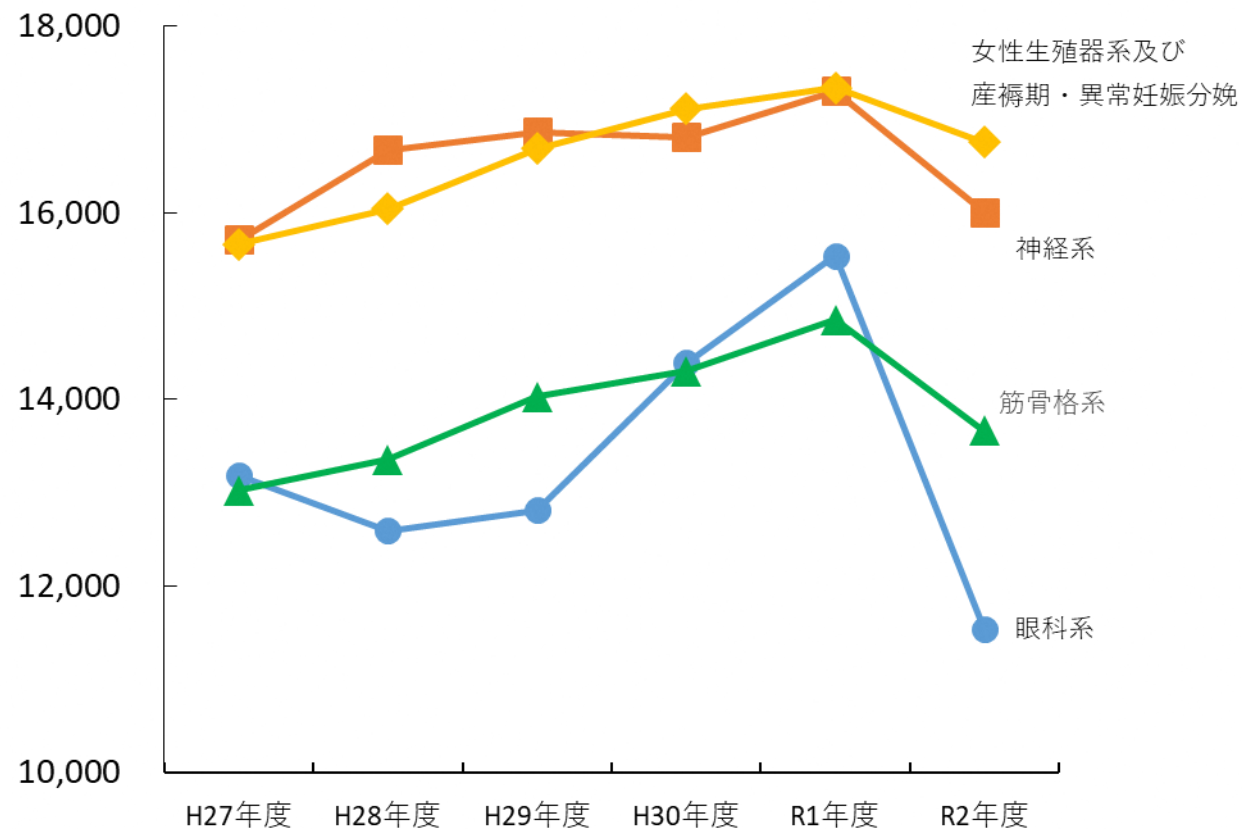
## ② (1) MDC別診療実績の推移①(DPC)

多くの部位において令和元年度までは需要は増加傾向であったが、  
コロナ禍となった令和2年度に減少している

● 診療実績概ね10,000～70,000件



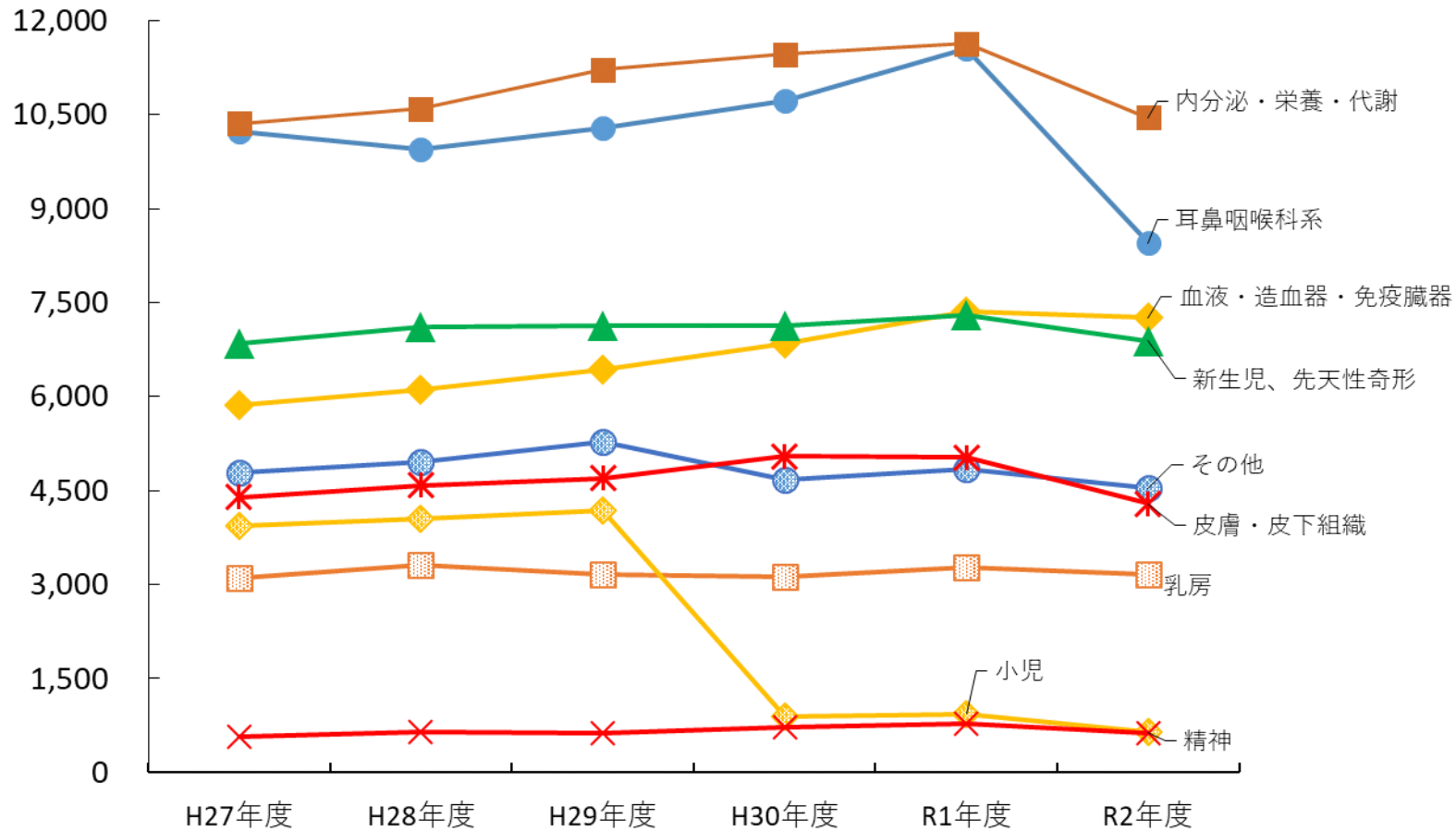
● 診療実績概ね10,000～18,000件



## ②(1) MDC別診療実績の推移②(DPC)

多くの部位において令和元年度までは需要は増加傾向であったが、  
コロナ禍となった令和2年度に減少している

● 診療実績 12,000件以下



## ③ 主に高度急性期から急性期となる 入院料の概要

(1) 病床の現状

(2) 医療提供状況(SCR)



### ③ (1) 病床の現状

急性期一般入院料1～3、特定機能病院入院料の病床稼働率は他の入院料に比して高い。周産期・新生児・小児集中治療室管理料等の稼働率は府と同程度、他の入院料は府平均より低い

● 病床の利用状況

入院料区分	大阪府		大阪市	
	平均在棟日数	病床稼働率	平均在棟日数	病床稼働率
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	4.7日	67.5%	4.4日	63.6%
周産期・新生児・小児集中治療室管理料等	10.8日	68.1%	10.8日	68.3%
小児入院医療管理料	6.1日	60.0%	6.2日	58.5%
特定機能病院一般病棟入院基本料等	10.7日	78.5%	9.8日	70.2%
急性期一般入院料 1～3	10.4日	75.1%	10.3日	72.8%
急性期一般入院料 4～7	14.9日	64.8%	14.7日	62.6%

「平均在棟日数」「病床稼働率」は病院プランの報告項目（在棟患者延べ数（1年間）の総和等）から算出

$$\text{平均在棟日数} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\frac{1}{2} \times [\text{各病棟の新規入棟患者数（1年間）の総和} + \text{各病棟の退棟患者数（1年間）の総和}]}$$

$$\text{病床稼働率} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\text{各病棟の許可病床数の総和} \times 365}$$

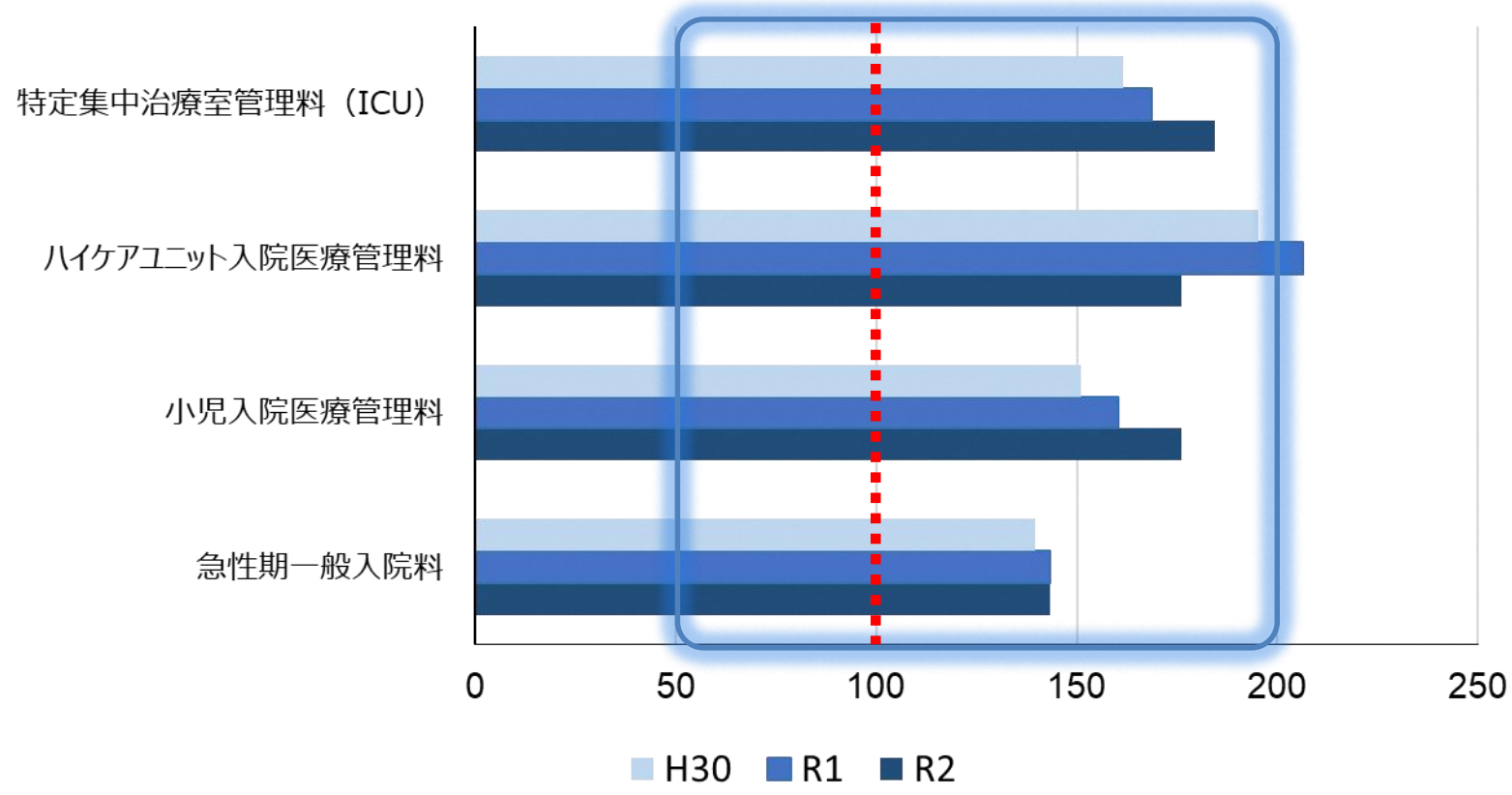
※算出にあたっては、以下の病棟は外れ値とみなし算出から除外

- ・新規入棟患者数（1年間）の総和、在棟延べ患者数（1年間）の総和、退棟患者数（1年間）の総和のいずれかが「0」もしくは「欠損値」となっている病棟
- ・2022（令和4）年7月1日時点の病床機能を「休棟中」で報告している病棟
- ・新規入棟患者数（1年間）の総和または退棟患者数（1年間）の総和が在棟延べ患者数（1年間）の総和を超える病棟
- ・病床稼働率が200%を超える病棟

### ③ (2) 医療提供状況 (SCR)

多くの入院料は、SCR(50～200)範囲に含まれており、医療提供実績が低い入院料は見受けられない

● 入院基本料別SCR



参照：内閣府 SCRデータ

## 【参考】<SCR（NDBデータ）の概要>

- レセプト情報等を集約したNDB（National Data Base）を活用し、各診療行為（診療報酬の算定回数）の地域差を「見える化」
- 各都道府県の年齢構成の違いを調整し、レセプトの出現比（SCR）として指数化（全国平均と同じ診療回数が行われた場合には指数が100となる）

SCR（Standardized Claim data Ratio）とは

全国の性・年齢階級別レセプト出現率を対象地域に当てはめた場合に計算により求められる期待されるレセプト件数と実際のレセプト件数とを比較したもの。年齢構成の異なる地域間の比較に用いられSCRが100以上の場合は全国平均より当該項目の件数が多いとされる。

$$\begin{aligned} \text{SCR} &= \frac{\sum \text{性・年齢階級別レセプト実数}}{\sum \text{性・年齢階級別レセプト期待数}} \times 100 \\ &= \frac{\sum \text{性・年齢階級別レセプト数}}{\sum (\text{各地域の性・年齢階級別人口} \times \text{全国の性・年齢階級別レセプト出現率})} \times 100 \end{aligned}$$

（NDB集計対象データ）

※医療機関所在地ベースの集計であり、流出入は考慮していない

※公費単独（生活保護等）は含まれていない

# ④ 主に急性期から回復期となる 入院料の概要

(1) 病床の現状

(2) 医療提供状況(SCR)

## ④ (1) 病床の現状

回復期リハビリテーション入院料、地域包括ケア病棟入院料の病床稼働率は他の入院料に比して高い。

地域包括ケア病棟入院料の稼働率は府平均より高く、他の入院料は府平均より低い

### ● 病床の利用状況

入院料区分	大阪府		大阪市	
	平均在棟日数	病床稼働率	平均在棟日数	病床稼働率
地域一般入院料 1・2 (13対1)	21.7日	68.7%	21.9	65.0%
地域一般入院料 3・一般病棟特別入院基本料 (15対1)	35.5日	67.5%	29.7	58.3%
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	25.2日	74.3%	25.5	75.9%
回復期リハビリテーション病棟入院料	57.9日	88.0%	55.2	86.7%
緩和ケア病棟入院料	22.4日	70.2%	20.9	58.1%

「平均在棟日数」・「病床稼働率」は病院プランの報告項目（在棟患者延べ数（1年間）の総和等）から算出

$$\text{平均在棟日数} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\frac{1}{2} \times [\text{各病棟の新規入棟患者数（1年間）の総和} + \text{各病棟の退棟患者数（1年間）の総和}]}$$

$$\text{病床稼働率} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\text{各病棟の許可病床数の総和} \times 365}$$

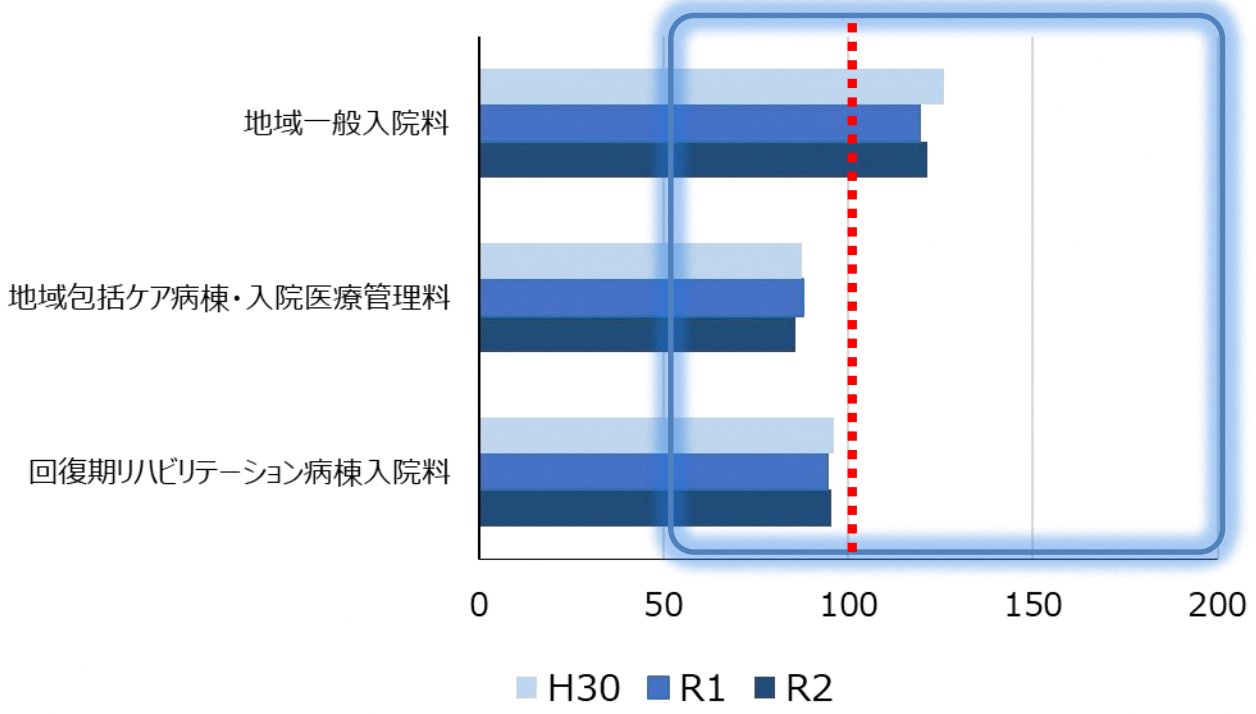
※算出にあたっては、以下の病棟は外れ値とみなし算出から除外

- ・新規入棟患者数（1年間）の総和、在棟延べ患者数（1年間）の総和、退棟患者数（1年間）の総和のいずれかが「0」もしくは「欠損値」となっている病棟
- ・2022（令和4）年7月1日時点の病床機能を「休棟中」で報告している病棟
- ・新規入棟患者数（1年間）の総和または退棟患者数（1年間）の総和が在棟延べ患者数（1年間）の総和を超える病棟
- ・病床稼働率が200%を超える病棟

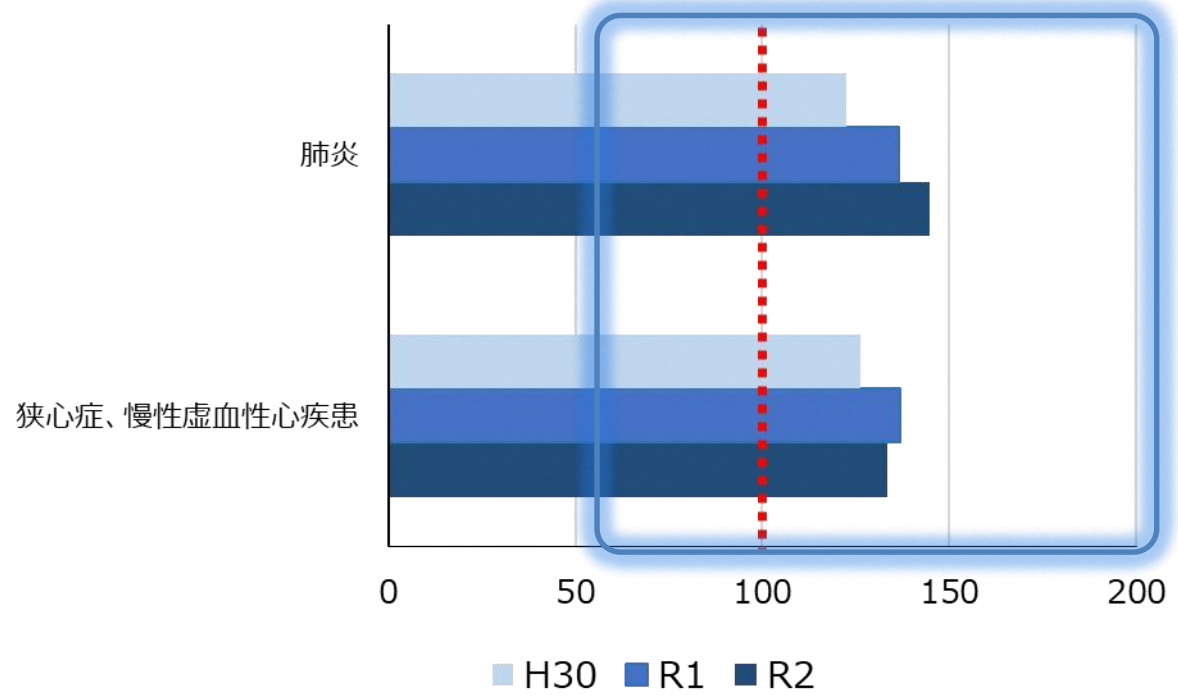
# ④ (2) 医療提供状況(SCR)

多くの入院料は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が特に低い入院料は見受けられないが、肺炎、狭心症・慢性虚血性心疾患のSCRより低い

● 入院基本料別SCR



●【参考】肺炎、狭心症、慢性虚血性心疾患 SCR



参照：内閣府 SCRデータ

# ⑤ 慢性期となる入院料の概要

(1) 病床の現状

(2) 医療提供状況(SCR)

# ⑤ (1) 病床の現状

障害者施設等・特殊疾患病棟の病床稼働率は他の入院料に比して高く、府と同程度である。他の入院料の稼働率は府平均より低い

## ● 病床の利用状況

入院料区分	大阪府		大阪市	
	平均在棟日数	病床稼働率	平均在棟日数	病床稼働率
療養病棟入院料	220.3日	87.9%	208.3	82.9%
介護療養病床	424.7日	79.8%	960.8	72.4%
障害者施設等・特殊疾患病棟	95.5日	87.7%	77.4	89.4%

「平均在棟日数」「病床稼働率」は病院プランの報告項目（在棟患者延べ数（1年間）の総和等）から算出

$$\text{平均在棟日数} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\frac{1}{2} \times [\text{各病棟の新規入棟患者数（1年間）の総和} + \text{各病棟の退棟患者数（1年間）の総和}]}$$

$$\text{病床稼働率} = \frac{\text{各病棟の在棟患者延べ数（1年間）の総和}}{\text{各病棟の許可病床数の総和} \times 365}$$

※算出にあたっては、以下の病棟は外れ値とみなし算出から除外

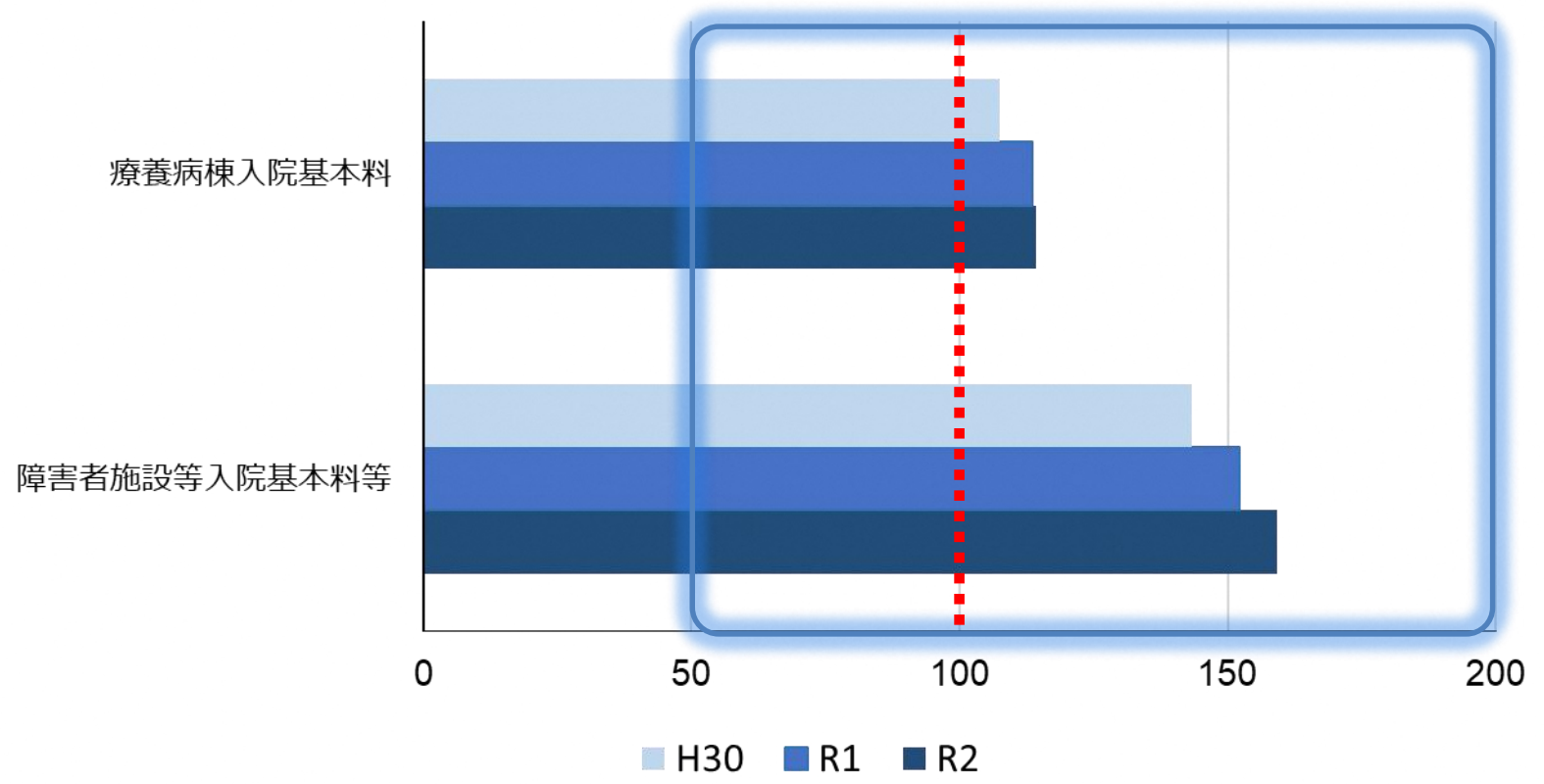
- ・新規入棟患者数（1年間）の総和、在棟延べ患者数（1年間）の総和、退棟患者数（1年間）の総和のいずれかが「0」もしくは「欠損値」となっている病棟
- ・2022（令和4）年7月1日時点の病床機能を「休棟中」で報告している病棟
- ・新規入棟患者数（1年間）の総和または退棟患者数（1年間）の総和が在棟延べ患者数（1年間）の総和を超える病棟
- ・病床稼働率が200%を超える病棟



## ⑤ (2) 医療提供状況(SCR)

多くの入院料は、SCR(50～200)範囲に含まれており、医療提供実績が低い入院料は見受けられない

●入院基本料別SCR



参照：内閣府 SCRデータ

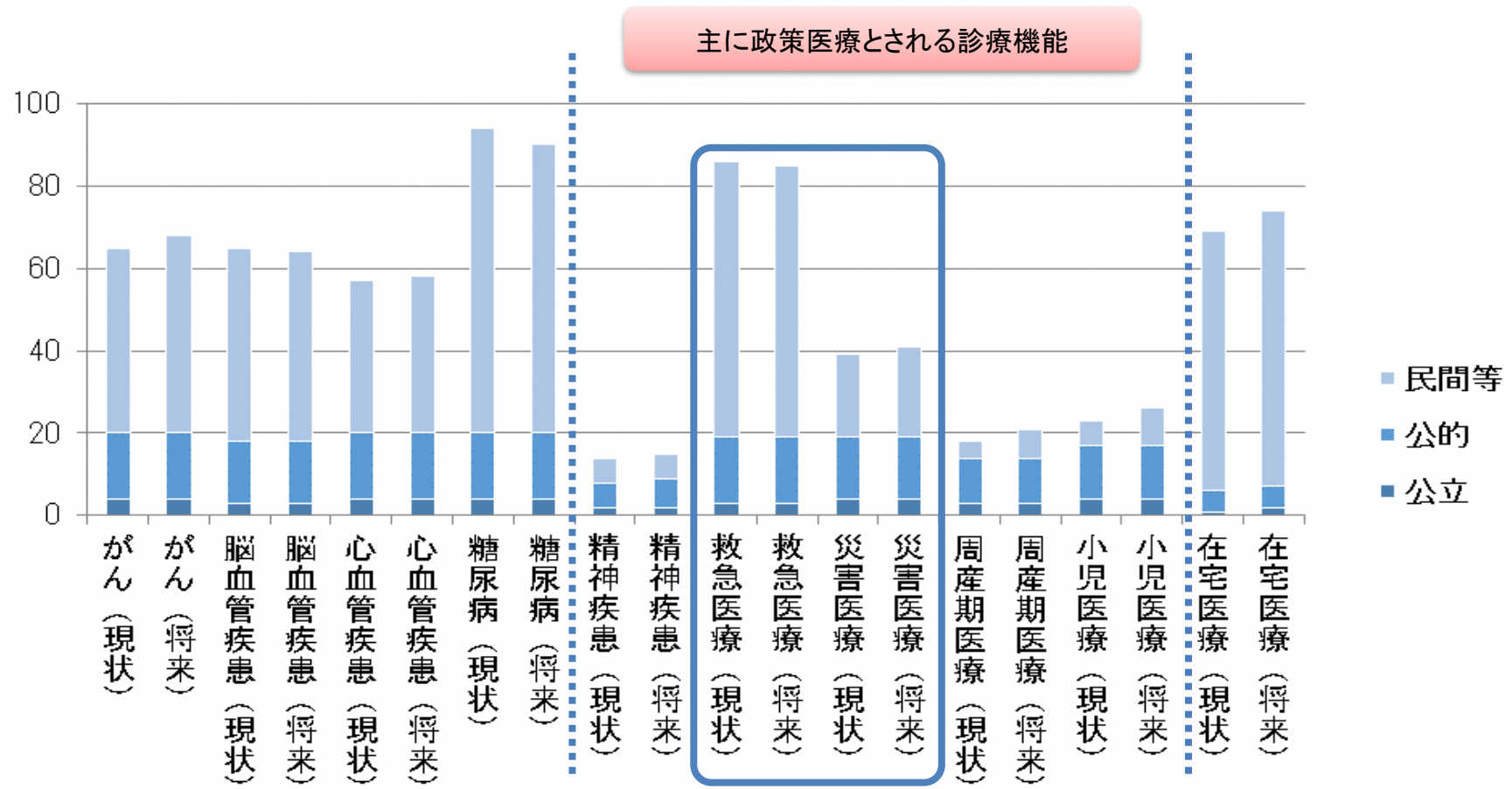
# ⑥ 将来のあるべき 医療体制に向けて

- (1)2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能等
- (2)まとめ

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等①

主に政策医療とされる診療機能の中で、「救急医療」「災害医療」については、民間等医療機関においても多くの医療機関が機能を担っている

## 1 診療機能別「現状の機能」と「2025年に向け検討している機能」の比較



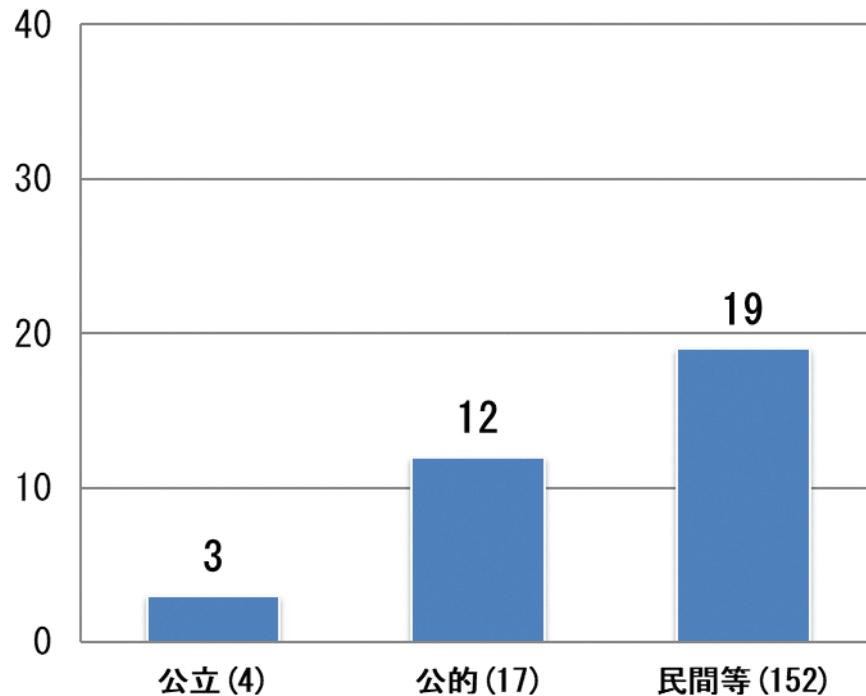
参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

## ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等②

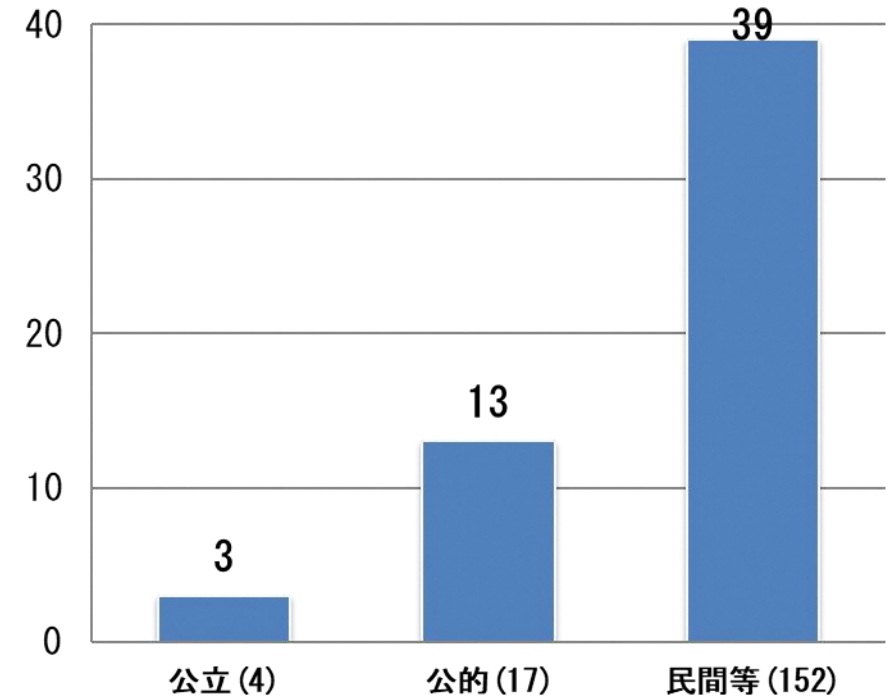
2025年に向け検討している診療機能について、新興・再興感染症等では34病院、新型コロナウイルス感染症では55病院となっている

### 2 2025年に向け検討している診療機能(感染症)

● 感染症（新興・再興感染症等）



● 感染症（新型コロナウイルス）

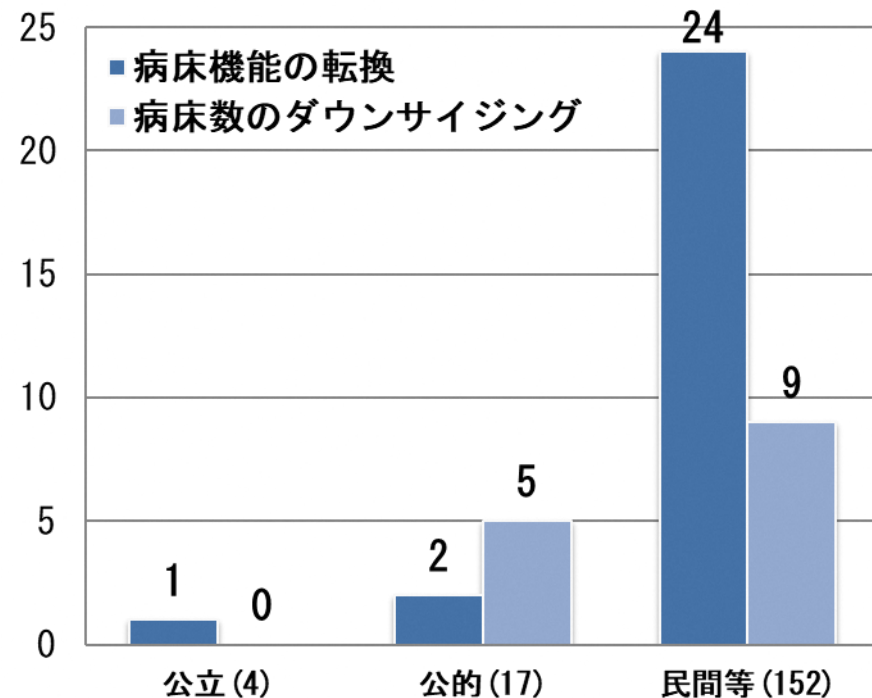


## ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等③

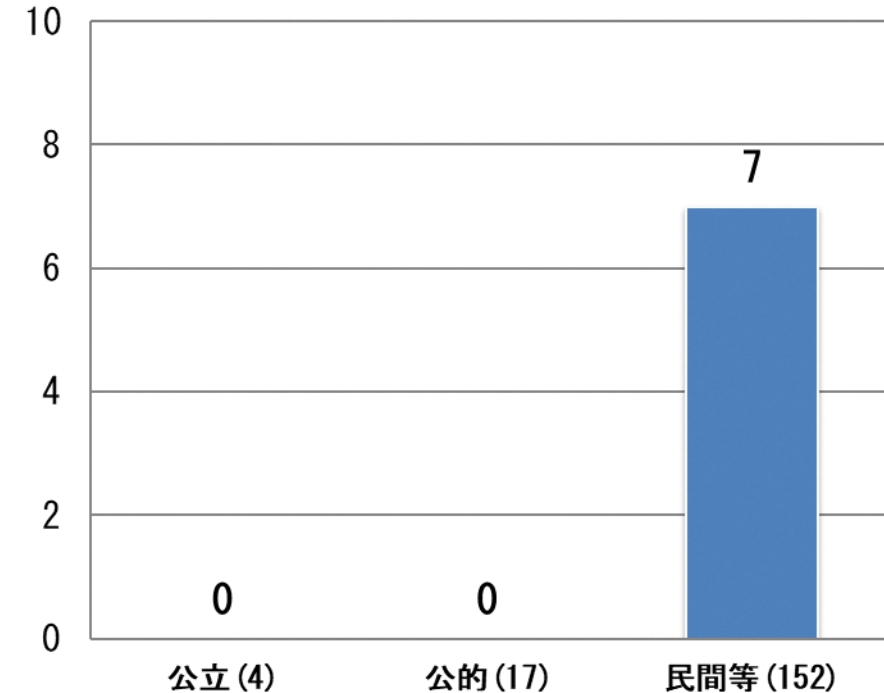
2025年に向け病床機能の転換を予定している医療機関は、公立は25%、公的は約12%、民間等は約16%の割合となっている

### 3 今後の病院の方針①

- 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無



- 地域医療介護総合確保基金 (病床転換促進事業補助金) の活用の希望

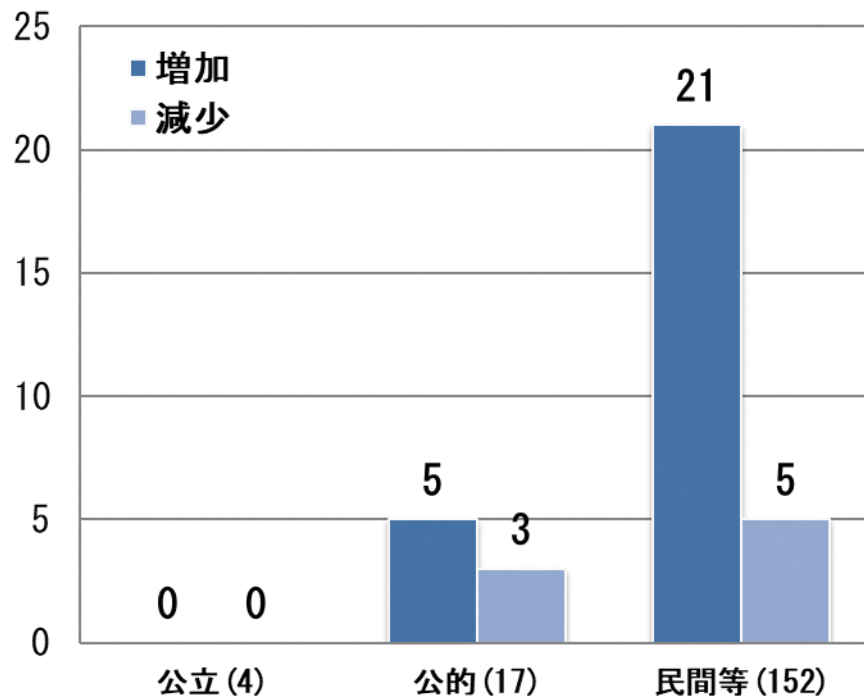


## ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等④

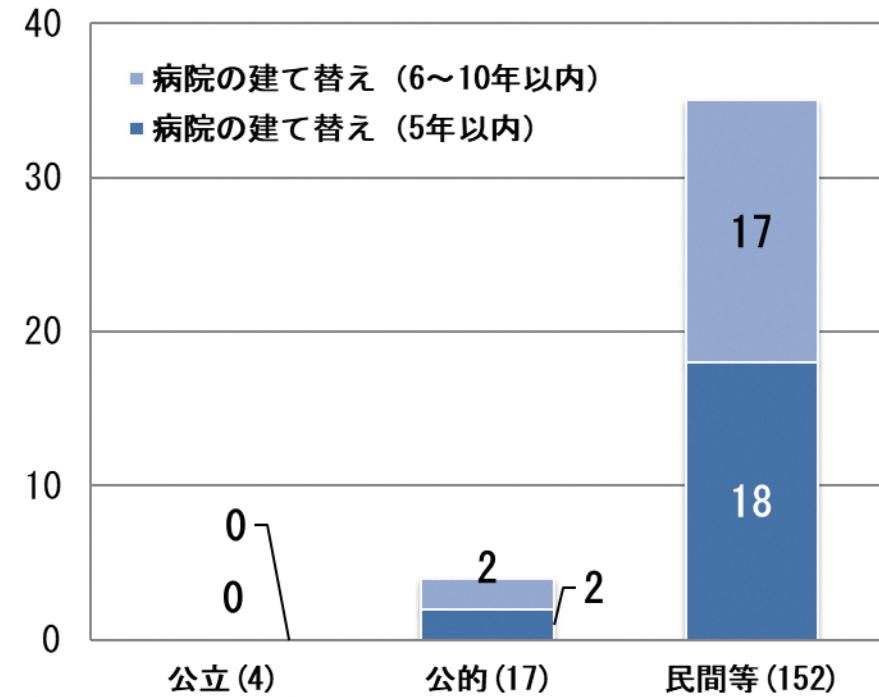
2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、20病院が5年以内に、19病院が6～10年以内に予定している

### 3 今後の病院の方針②

● 2025年に向けた診療科目の見直しの予定の有無



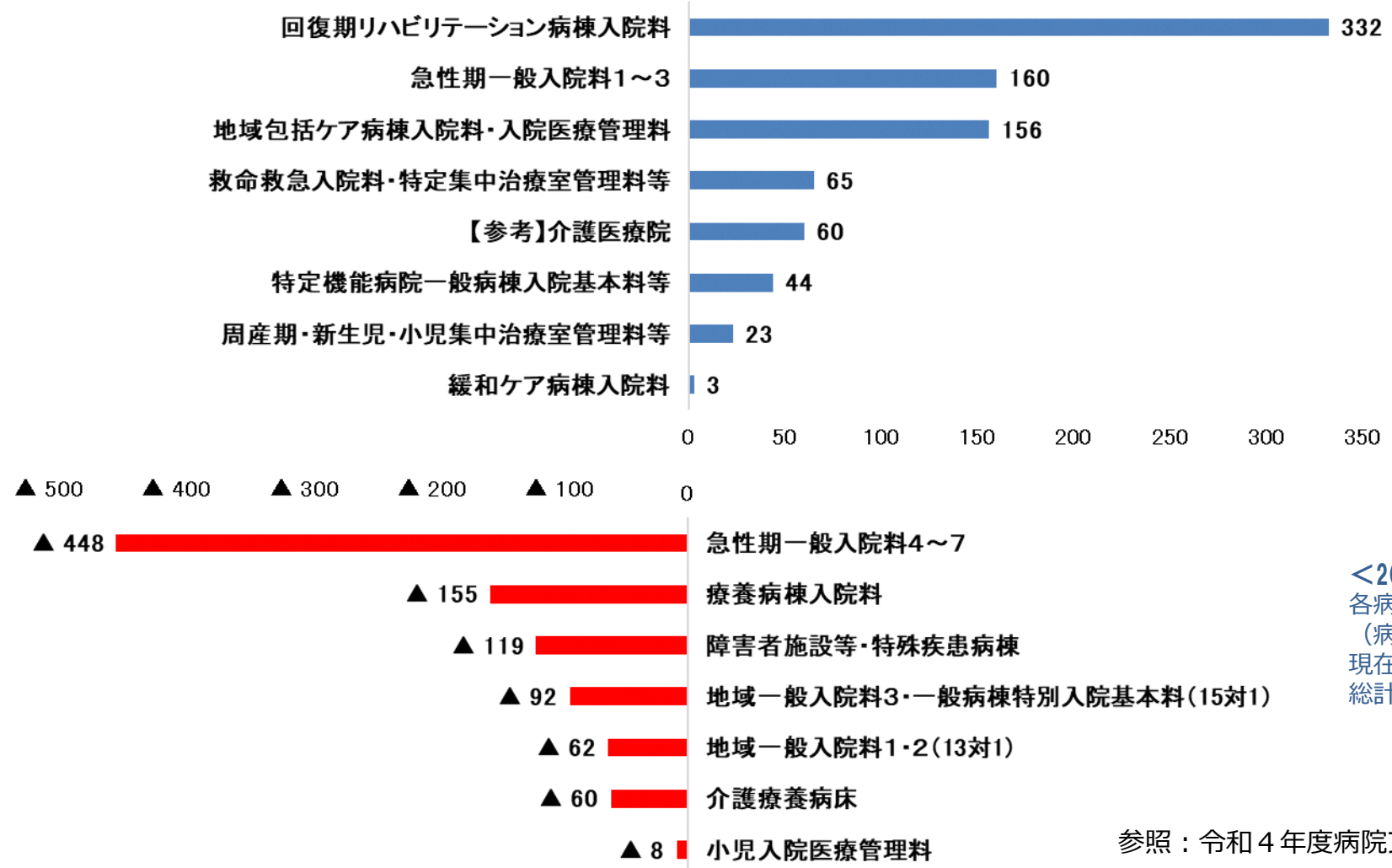
● 2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑤

## 2025年に向け、回復期リハビリテーション病棟入院料の病床の増加、急性期一般入院料4～7の病床の減少が検討されている

● 入院料別の検討状況※



＜2025年に向けた検討状況＞  
 各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

## ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑥

### 2025年に向け、公立病院では高度急性期・急性期、公的病院では高度急性期、民間等病院では回復期病床への転換を検討している

#### ● 公立・公的・民間別の検討状況

病床機能別病床数【2025年に向け検討している病床機能等】

	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟予定	計
				地域	リハ			
公立	1,652	890	45	0	45	38	0	2,625
公的	3,218	4,822	337	181	156	200	99	8,676
民間等	1,168	6,410	4,855	2,792	2,063	7,160	0	19,593
<b>計</b>	<b>6,038</b>	<b>12,122</b>	<b>5,237</b>	<b>2,973</b>	<b>2,264</b>	<b>7,398</b>	<b>99</b>	<b>30,894</b>

2025年に向けた現状との病床数の増減

	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟予定	計
				地域	リハ			
公立	+87	+167	▲ 4	0	▲ 4	0	▲ 155	+95
公的	+324	▲ 145	+21	▲ 42	+63	0	▲ 120	+80
民間等	+82	▲ 321	+246	▲ 81	+327	▲ 185	▲ 314	▲ 492
<b>計</b>	<b>+493</b>	<b>▲ 299</b>	<b>+263</b>	<b>▲ 123</b>	<b>+386</b>	<b>▲ 185</b>	<b>▲ 589</b>	<b>▲ 317</b>



# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 弘済院附属病院が2025年に向け病院の再編を検討している

### ● 大阪市北部・南部・豊能

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期 (地域)	回復期 (リハ)			
大阪市立弘済院附属病院	03 吹田市	90	0	90	0	0	0	0	0
大阪市立総合医療センター	61 都島区	975	761	97	0	0	0	0	117
大阪公立大学医学部附属病院	79 阿倍野区	927	495	336	0	0	0	0	96
計		1,992	1,256	523	0	0	0	0	213



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期 (地域)	回復期 (リハ)	慢性期	休棟中
2026(令和8)年 2月	大阪市立総合医療センター	61 都島区	950	808	142	0	0	0	0	0
	大阪公立大学医学部附属病院	79 阿倍野区	921	921	0	0	0	0	0	0
	【新】住吉市民病院跡地新病院	83 住之江区	120	0	120	0	0	0	0	0
	計		1991	1729	262	0	0	0	0	0
	増減		▲ 1	+473	▲ 261	0	0	0	0	▲ 213

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 済生会中津病院が2025年に向け病院の再編を検討している

●大阪市北部

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期(地域)	回復期(リハ)			
済生会中津病院	65 北区	670	567	28	75	42	33	0	0
計		670	567	28	75	42	33	0	0



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
						回復期(地域)	回復期(リハ)			
2023(令和5)年 4月	済生会中津病院	65 北区	550	522	28	0	0	0	0	0
	【新】済生会大阪北リハビリテーション病院	65 北区	96	0	0	96	0	96	0	0
	計		646	522	28	96	0	96	0	0
	増減		▲ 24	▲ 45	0	+21	▲ 42	+63	0	0

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 明生会3病院が2025年に向け病院の再編を検討している

● 大阪市北部・東部 ※令和4年度病院プランにおいて再編計画の提出あり

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期(地域)	回復期(リハ)			
社会医療法人明生会明生記念病院	61 都島区	54	0	0	0	0	0	54	0
社会医療法人明生会明生病院	61 都島区	195	0	144	0	0	0	51	0
社会医療法人明生会明生第二病院	74 東成区	133	0	0	36	0	36	97	0
計		382	0	144	36	0	36	202	0



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期(地域)	回復期(リハ)	慢性期	休棟中
2024(令和6)年 1月	社会医療法人明生会明生記念病院	61 都島区	38	0	0	0	0	0	38	0
	社会医療法人明生会明生病院	61 都島区	161	0	116	0	0	0	45	0
	社会医療法人明生会明生第二病院	74 東成区	183	0	0	91	0	91	92	0
	計		382	0	116	91	0	91	175	0
	増減		0	0	▲ 28	+55	0	+55	▲ 27	0

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 医誠会2病院が2025年に向け病院の再編を検討している

● 大阪市北部・東部 ※令和3年度の協議会で合意が得られず、継続協議となっている

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟中
						回復期(地域)	回復期(リハ)		
医誠会病院	62 東淀川区	327	88	239	0	0	0	0	0
医療法人医誠会城東中央病院	76 城東区	233	0	142	91	91	0	0	0
計		560	88	381	91	91	0	0	0



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟中
							回復期(地域)	回復期(リハ)		
2023(令和5)年 10月	【新】医誠会国際総合病院	65 北区	560	98	462	0	0	0	0	0
	計		560	98	462	0	0	0	0	0
	<b>増減</b>		<b>0</b>	<b>+10</b>	<b>+81</b>	<b>▲ 91</b>	<b>▲ 91</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 桜橋渡辺病院が2025年に向け病院の再編を検討している

●大阪市北部

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟中
						回復期(地域)	回復期(リハ)		
医療法人渡辺医学会桜橋渡辺病院	65 北区	171	26	145	0	0	0	0	0
計		171	26	145	0	0	0	0	0



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期		慢性期	休棟中
							回復期(地域)	回復期(リハ)		
2023(令和5)年 10月	医療法人渡辺医学会桜橋渡辺病院	65 北区	58	0	58	0	0	0	0	0
	【新】(仮称) 中之島未来医療病院	65 北区	113	13	100	0	0	0	0	0
	計		171	13	158	0	0	0	0	0
	増減		0	▲ 13	+13	0	0	0	0	0

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 千船病院、大正病院が2025年に向け病院の再編を検討している

● 大阪市西部

※令和4年度病院プランにおいて再編計画の提出あり

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期(地域)	回復期(リハ)			
社会医療法人愛仁会千船病院	71 西淀川区	292	139	153	0	0	0	0	0
医療法人彰療会大正病院	70 大正区	173	0	45	37	37	0	55	36
計		465	139	198	37	37	0	55	36



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
						回復期(地域)	回復期(リハ)			
2024(令和6)年 4月	社会医療法人愛仁会千船病院	71 西淀川区	308	134	174	0	0	0	0	0
	医療法人彰療会大正病院	70 大正区	145	0	53	37	37	0	55	0
	計		453	134	227	37	37	0	55	0
	増減		▲ 12	▲ 5	+29	0	0	0	0	▲ 36

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 社会医療法人きつこう会4病院が2025年に向け病院の再編を検討している

● 大阪市西部

※令和4年度病院プランにおいて再編計画の提出あり

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期(地域)	回復期(リハ)			
多根記念眼科病院	68 西区	58	0	58	0	0	0	0	0
多根総合病院	68 西区	304	22	262	20	20	0	0	0
多根第二病院	69 港区	216	0	0	0	0	0	216	0
多根脳神経リハビリテーション病院	69 港区	50	0	0	50	0	50	0	0
計		628	22	320	70	20	50	216	0



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期	回復期(地域)	回復期(リハ)	慢性期	休棟中
2025(令和7)年 10月	多根総合病院	68 西区	628	22	262	112	72	40	232	0
	計		628	22	262	112	72	40	232	0
	増減		0	0	▲ 58	+42	+52	▲ 10	+16	0

参照：令和4年度病院プラン（速報値：1月19日現在）

# ⑥ (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等⑦

## 社会医療法人警和会2病院が2025年に向け病院の再編を検討している

### ●大阪市東部

医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
					回復期 (地域)	回復期 (リハ)			
社会医療法人警和会大阪警察病院	72 天王寺区	580	378	178	0	0	0	0	24
社会医療法人警和会第二大阪警察病院	72 天王寺区	341	4	294	41	41	0	0	2
計		921	382	472	41	41	0	0	26



再編統合予定時期	医療機関名	市区町村	計	高度急性期	急性期	回復期			慢性期	休棟中
						回復期 (地域)	回復期 (リハ)			
2025(令和7)年 1月	社会医療法人警和会大阪警察病院	72 天王寺区	700	382	318	0	0	0	0	0
	計		700	382	318	0	0	0	0	0
	増減			▲ 221	0	▲ 154	▲ 41	▲ 41	0	0



## ⑥ (2) まとめ

- 病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、約7%程度同機能への転換が必要と推計される
- 地域急性期病院・回復期リハビリ病院、他、急性期ケアミックス病院・後方支援ケアミックス病院が回復期機能を多く担っている
- 2025年に向け、公立病院では高度急性期・急性期への転換を、公的・民間等病院では回復期病床への転換を検討している
- 大阪市二次医療圏において、8件の再編統合が検討されている